愛知県図書館　企画展示

あいちの作家 生誕百年

新美南吉と杉浦明平

平成 25 年９月 13 日(金)～12 月 11 日(水)
愛知県図書館　２階ロビー

「ごんぎつね」で有名な新美南吉と、「小説渡辺崋山」で
知られる杉浦明平は、ともに今年生誕百年を迎える
愛知県出身であり地元で活躍した作家です。
それぞれの代表作をはじめ、雑誌に発表された作品や、
活躍した当時の地域を知る資料を展示し、
一部貸出も行います。
ふるさとあいちの作家に親しんで、
読書の秋をどうぞお楽しみください。

展示資料の一例をご紹介します。展示ケース内の資料は館外貸出のできない資料ですが、館外貸出できる資料も会場で多数ご用意しています。どうぞご覧ください。

****** 新美南吉（にいみなんきち） 1913(大正 2).7.30-1943(昭和 18).3.22 ******

大正 2(1913)年 7 月 30 日知多郡半田町(現半田市)生まれ。本名正八。半田中学校、東京外国語学校英語部(現東京外国語大学)卒。代用教員を経て昭和 13(1938)年から県立安城高等女学校の教員となる。結核を患い、昭和 18(1943)年 3 月 22 日死去、享年 29 歳。

- 「ごん狐」(『赤い鳥』第 3 巻第 1 号（昭和 7 年 1 月))
  雑誌「赤い鳥」は鈴木三重吉主宰の童話・童謡雑誌で、南吉は半田中学校の学生時代から愛読し投稿をしていた。初めて投稿が載ったのは童謡「窓」（昭和 6 年 5 月号）で以降童話「正坊とクロ」（同年 8 月号）などが掲載された。
- 『おぢいさんのランプ』(復刻版 ほるぷ出版(昭和 53 年) 刊/元本は有光社（昭和 17 年）刊)
  南吉の第一童話集。表題作のほか、「川」「嘘」「ごんごろ鐘」などの小品集。病状が進み気分がふさいでいたころ北原白秋門下の 巽（たつみ）聖歌（せいか）の尽力により出版にこぎつけた。装丁・挿絵は棟方志功。
- 『愛知県教育関係職員録　昭和 16 年』(愛知県教育会　昭和 16 年)
  県立安城高等女学校の項に本名「新美正八」で英語と作文の教諭として掲載されている。

****** 杉浦明平（すぎうらみんぺい） 1913(大正 2).6.9-2001(平成 13).3.14 ******

大正 2(1913)年 6 月 9 日渥美郡福江町(現田原市)生まれ。東京帝国大学文学部国文学科卒。文筆活動の傍ら、昭和 30 年代に渥美町会議員を努めた。昭和 46(1971)年『小説渡辺崋山』で毎日出版文化賞、平成 7(1995)年『ミケランジェロの手紙』翻訳で日本翻訳出版文化賞の特別功労賞を受賞。平成 13(2001)年 3 月14日死去、享年 87 歳。

- 「小説渡辺崋山　第１回」(『朝日ジャーナル』第 10 巻第 1 号(昭和 43 年 1 月 7 日)
  田原藩の藩士で画家であった渡辺崋山を題材にした連載小説で全１４４回（連載終了昭和 45 年 10 月 18 日)。昭和 46 年に単行本化、毎日出版文化賞を受賞。
- 「窓からの眺め　第１回寺社建築」(『文芸』第 17 巻第 7 号（昭和 53 年 7 月))
  渥美での暮らしを綴った連載エッセイで全４０回（連載終了昭和 56 年 12 月)。後に『ボラの哄笑－渥美風物誌』として単行本化。この他『渥美だより』や『カワハギの肝』『養蜂記』などふるさと渥美に関する著作も多い。
- 『レオナルド・ダ・ヴィンチの手記　上･下』(岩波書店 上:昭和 29 年/下:昭和 33 年)
  短歌雑誌『アララギ』で短歌を発表する一方で、イタリアルネサンスの研究を志し、『科学について』（レオナルド・ダヴィンチ著・当館未所蔵)『ミケランジェロの手紙』のような専門書の翻訳のほか、児童向けの岩波少年文庫『ピノッキオの冒険』『チポリーノの冒険』などの翻訳でも知られる。
  渥美周辺を題材にした作品で知られる明平であるが、他の一面をうかがわせる資料である。

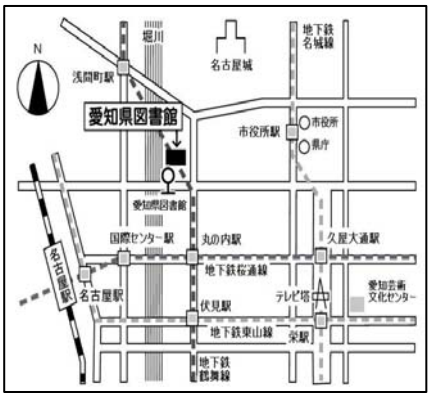
【お問合せ】

愛知県図書館　総務課　企画グループ

〒460-0001　名古屋市中区三の丸 1-9-3

Tel 052-212-2323　　Fax 052-212-3674

http://www.aichi-pref-library.jp/



【交通案内】

・地下鉄/鶴舞線 または 桜通線「丸の内」下車８番出口から北へ徒歩５分

・市バス/名古屋駅から 幹名駅１・名駅 14「愛知県図書館」下車徒歩３分

【開館時間・休館日】

午前１０時～午後８時（土・日・祝日は午後６時まで）

休館日：月曜日、毎月第２木曜日

*ただし9/16（月祝）・9/23（月祝）・10/14（月祝）・11/4（月祝）は開館、
9/17（火）・9/24（火）・１０/１５（火）・１１/５（火）は休館